

長野に住職から紐解いて、い
ただいた正信偈や唱え方、
数々の法話について、い
れも記憶にあるかと思ふと怪
しいのですが、血肉になつて
体内に残つてゐるのは確かな
ようです。

20年前は何も知らず、何
もしなかつた私が、今は家
仏前に向かい正信偈を唱える
ことができ、御文章を拝読で
きるようになったことがひ
とつの証の様な気がします。

また、法話の中での他力本
願などの説き明かしでは、自
分にとつて新しい発見のよう
な驚きが数々ありました。

さらに、どうしても触れて
おきたいことは、仏壮メン
バーとの交流です。仕事だけ
に燃えて（？）いた自分
が、リタイヤ後もこうして楽
しく地元で暮らせるのは、皆
さんとの交流やそこからは派
生した繋がりがある。だから
ほかにもありません。

20年以上にわたりお世話
いた、だいたご住職はじめ坊
さま、共に縁を結んだ仏壮メ
ンバーの方々。本当に有難う
ございました。今後ともよろし
くお願いいたします。

題材法話

浄土真宗のみ教え ②②
「美しき西方浄土」

（2）
*拝読「浄土真宗のみ教え」の30頁をお読み下さい。

前号からのつづき

親鸞聖人は、「苦悩に満ちた迷いの世界は捨てがたいし、安らかな悟りの世界に心惹かれるのは誠に煩悩が盛んだかであるに煩悩ど、どれほど名残惜しきと思つても、縁がつかず浄土に往生させる時に阿彌陀さまは早く往生したくない私を哀れに思ひなす。慈悲の心で本願を起されたものだから、生ます。仰ると思へる。にそしてさらさら



の「だろ」と付加えられま
思われるかと疑わしく
す。」「と付け加えられま
○西方浄土
の、つとに歎異抄原文
まで流転せる苦悩の旧
里はすてがたく、浄土
だ生れざる安養の浄土
はこひしからず候ふ
という言葉は、ひ
しと身にお浄土には
安養の急いで行きた
い昔も思ひ死に遠
い昔も思ひ死に遠
婆へ早く執着は強、決
しえて早く死に強、決
思えません。それこそ
煩悩のせいであり、そ
かから弥陀さまの救う
うかな弥陀さまの救う
確かな弥陀さまの救う
となす。だとい
イメはいで、お
メとはいで、お



りです。そこで、私達
に、お浄土をイメー
せ、往生したいと思わ
せるように願われて、
「仏説阿彌陀經」に
ぎの御文が示されてい
ます。『これより西方
に、十萬億の仏土を過
ぎて世界あり、名づ
けて極樂といふ。そ
の土に仏まします。
阿彌陀と号します。
今現にましまして
法を説きたもふ』
土「すなわち西方浄
に、ただ私達が西方を
の、理屈で考え、人間
と宇宙地球を西
「法蔵願力のな
けるなり』であ
ります。1月例会住職法話よ



○法蔵願力のなせるなり
実際に美しく沈む夕日
を眺めるとき、何とも言
えない穏やかな気持ちに
なることができます。
安樂の世界が夕日の沈
む西方に建立されている
として、凡夫の到るべき
世界を示して、浄土に生
まれさせると導こう
とされているのです。
迷いの凡夫を我が国に
生まれさせ、必ずさと
に導きたいという、すべ
てが阿彌陀如来のたま
きによるもので、まさ
に、
「法蔵願力のな
けるなり』であ
ります。1月例会住職法話よ

